

きんきしよがちんきんぶんだい かちょうちんきんすずりばこ
琴棋書画沈金文台・花鳥沈金硯箱

種 別	重要文化財 工芸品
指定年月日	昭和 63 年 6 月 6 日
所 在 地	天神町（小松天満宮）

この文台と硯箱は、小松天満宮の初代別当⁽¹⁾である能順が、靈元上皇から下賜されたものと伝わる。ともに室町時代の製作とみられ、沈金⁽²⁾の技法が中国から日本に伝わって間もない時期の秀作である。

能順は北野天満宮の社僧で、小松天満宮の創建の際に前田利常に招かれた。小松天満宮別当となってからも京都と小松を行き来し、小松に京都の文化を伝えた。また連歌に優れ、各地で連歌会を開いている。

文台は黒漆地で、天板の中央には、楼閣にて琴棋書画⁽³⁾を嗜む中国の文人の姿が描かれている。また枳外や脚部には、牡丹や菊などの花文を配している。机面の左右端には筆返しと呼ばれる隆起を設け、金銅製の金具も精巧に作られている。

硯箱は被せ蓋造りで、文台と同じく黒漆地である。蓋の上面には2羽の鳳凰が旋回状に描かれ、周囲や側面は牡丹・菊の花文が隙間無く描かれている。また、蓋の裏面や筆皿にも花文があしらわれている。硯石は中国産で、水滴（水差し）は金銅製の大型のものである。

どちらも室町時代の沈金の代表作であり、日本における初期の沈金として工芸史上貴重な作品である。

(1) 別当：神社の最高職を務める僧侶。

(2) 沈金：漆地に刃物で彫った痕に金粉を埋めて模様を表現する技法。

(3) 琴棋書画：中国で文人が嗜むべきとされた、琴・棋（囲碁）・書道・絵画の4つの芸能。



↑花鳥沈金硯箱

←琴棋書画沈金文台